

# 『仙石山論集』の刊行に寄せて

学長 今西順吉

国際仏教学大学院大学学生による研究論文の発表機関誌として新たに『仙石山論集』を創設し、このたびその第一号を発刊するにいたしました。これまでは学生の論文も『国際仏教学大学院大学研究紀要』に収載していましたが、今後は学生は『仙石山論集』に拠って縦横に論を展開することができます。

本学は学部をもたない、大学院のみの大学であって、仏教学研究科のもとに仏教学専攻が置かれており、五年制の博士課程です。学生は入学後五年間を目標に博士論文の完成に向けて研究に専念することができます。もっともその途上で、修士論文をまとめて修士の学位を取得することもできます。また、他の大学院において修士の学位を取得した者のために三年次（一般の大学院における博士後期課程の初年次に相当）への編入学の制度を設けましたので、すでに高度の専門教育を受けた者は三年間の課程で学ぶことができます。

本学における教育は授業と平行して行われる論文指導を重視するところに特徴があります。論文指導は指導教員による学生の綿密な個人指導として進められますが、その研究経過を学生は全教員・全学生出席のもとに毎週開催される研究会において随時発表します。ここで種々の意見が提出され、それらを参考にしてさらに研究を磨き上げることとなります。こうした段階を踏んではじめて研究論文として公開されます。

本学の学生のほぼ半数はヨーロッパ・アジアからの留学生が占めております。はるばる日本に来て、日本人学

生とともに非常に熱心に仏教研究に専念する姿を見ておりますと、あらためて現代における仏教研究の国際的意義について考えさせられます。

現代は科学技術の異常な発展によって人類そのものが存亡の危機に瀕していると激しく警鐘が打ち鳴らされ、かかる事態を招いた根源が西洋的自然観にあると指摘されて、特に西欧の仏教学者や哲学者は仏教に対して大きな期待を寄せております。学生達の仏教研究に対する強い情熱はこのような現代の課題を背景にしていると解することができます。

若い才能を未来に向けて育てることは教育研究機関の最大の使命であるとともに、そこに身を置く者の喜びでもあります。本学の教員配置はインドから日本にいたる各地域の仏教の個別的な研究をカバーするだけでなく、個々の細部に偏ることなく、その全体を視野に入れることにも配慮されております。学生達が本学において研鑽を重ねて、将来、人類の大きな課題に向かって貢献することを願って、ささやかながらその第一歩としての研究成果をここに刊行いたしますので、暖かい御助言御叱正を賜りますようお願い申し上げます。